

OnAir 2500 ユーザーレポート

株式会社アール・エフ・ラジオ日本 様

OnAir 2500-12F Modulo



マスター室ネット用音声卓を OnAir 2500 で更新



株式会社アール・エフ・ラジオ日本
技術局技術部
國富 誉

スタジオ更新の経緯

2014 年秋にラジオ日本はマスター設備を更新しました。マスター設備の省スペース化により、ネット用音声卓を新設する事が可能になりました。マスター監視業務とネット監視業務が同時に行なえるシステムが実現できないかと検討し始め業務効率化向上を図りました。そのネット用音声卓として STUDER 製 OnAir 2500-12Fader Modulo を導入しました。

スタジオシステムの概略

ネット用音声卓は、野球場や競馬場などの局外現場からの音声を受け、スタジオや各部署に配信、マイナスイブを構築、ネット局向けの生中継番組を制作するなど、局外への音声の交通整理を目的とした重要な役割を果たします。また、競馬中継においては、裏録音機能は欠かせずことができます。『PRE REC』ボタンを押すだけで録音したい音声を録音することが可能になりました。2 場以上での開催の場合は、レース実況やインタビューが他の競馬場と重なることがあります。この様な場合は、リアルタ

イムの実況の裏で、他場の音声を裏で録音します。これまでのアナログ音声卓では、細かい素材の選択は簡単にできず、いつも JACK 盤で裏録音用の臨時配線をしておりました。

機器選定のポイント

これまでネット監視業務はネット室ということで監視しており、その都度、マスター室とネット室を行き来していました。限られたスペースに設置でき、コンパクトで入出力系統が多い音声卓を検討していました。最も信頼がおける音声卓は、アナログ音声卓というのが常識でした。しかし、これまでの STUDER 製 OnAir シリーズを導入するにつれて、そのシリーズに対する信頼度が増し、現在ではデジタル音声卓への戸惑いは全くなく、その為が今回の OnAir 2500 Modulo で当社は OnAir シリーズの全現行ラインナップが揃い、当社の常識が良い意味で覆っています。

OnAir シリーズへの感想

ご参考までに当社では、生放送スタジオ (OnAir 3000)、収録スタジオ (OnAir 2500)、中継外現場用 (OnAir 1500) で、今回はネット用に、コンパクトでデスクに埋め込める OnAir 2500 Modulo 導入をしました。シリーズによって操

作方法に多少違いはありますが、操作性のベースは一緒です。OnAir シリーズは触ったことがある人なら誰でも操作ができます、というほど操作性は抜群です。

納入後の様子

今回のネット用音声卓は基本的には技術スタッフのみがオペレーションします。OnAir 3000 に慣れている技術スタッフは、基本的な操作でわからないことが無いという状況でした。トレーニング無しで、全技術スタッフすんなり入り込むことができました。しかも配線工事後、わずか 2 日後には、運用を開始しました。さらに、SNAPSHOT の設定も当社で行いました。競馬中継、野球中継で運用を開始しましたが、全く問題無く快適に運用できております。さらに、マスター監視とネット監視業務がマスター室で同時にできるようになり、当初掲げていた、業務効率化向上も実現することができ、大変嬉しく思っております。

最後に、スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト株式会社様、また、長期にわたるマスター更新工事やネット卓システム工事を担当された株式会社アイコニック様、そしてご尽力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。